

〔一〕 次の――線部について、漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直さない。

- ① 濃霧が発生する。
- ② 潔白を証明する。
- ③ 兄は度胸がある。
- ④ 誇らしい顔つき。
- ⑤ ご飯を蒸らす。
- ⑥ サイシンの注意をはらう。
- ⑦ ここには大きなチョスイチがある。
- ⑧ 新人が主役にキヨウされる。
- ⑨ 業績の回復にツトめる。
- ⑩ 今月はイソガしい。

〔二〕 次の問いに答えなさい。

問一 次の1～3の――線部と同じ種類・用法のものを後の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

1 海で泳ぐ。

- ア 波はおだやかであつた。
- イ 空港で働いている。
- ウ 雨が降りそうである。
- エ 電車で学校に通う。

2 うそは言わない。

- ア 母は決して泣かない。
- イ 虫の命ははかない。
- ウ 芸術にはあまり興味が無い。
- エ 食べ物を残したるもつたない。

3 弟は走るのが好きだ。

- ア 白い方のシャツを着る。
- イ 父の働く会社です。
- ウ 雪の中を歩いていく。
- エ 人前で話すのは得意だ。

問二 次の1～4の四字熟語の□の中にはそれぞれ同じ漢字が入ります。ふさわしい漢字を答えなさい。

1 □信□疑

2 □材□所

3 □期□会

4 以□伝□

問三 次の1～3の中のそれぞれの言葉を五十音順の国語辞典で引くときに、出ている順にア～エの記号を並べなさい。

1 ア 往復 イ 大勢 ウ 王子 エ 多い

2 ア 終点 イ 商売 ウ 収入 エ 試運転

3 ア 花立て イ 話し手 ウ 鼻血 エ はなはだしい

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。（句読点や記号も一字にかぞえること。本文の行末にある数字は行数です。）

「おっ、やってるねえ」

波多野由里が塾に早めに来て勉強をしていると、若林武が参考書のぞきこんで言った。

「ちよっと、勝手に見ないでよ」

由里はその顔を手で払いのけると、そのまま勉強を続けた。事前と同じ中学の子がいないかどうか問い合わせて入った塾なのに、入って見たらなんと同じ陸上部の若林武がいた。

塾長が、若林のおばさんに当たるひとで、それでここに通っているらしいのだ。

由里は塾長に話が違っていると抗議しようとしたけれど、この塾を選んだ理由として〈小規模で丁寧に見てもらえそうだから〉と初日のアンケートで回答してしまったので、文句が言えなかった。

まあでも、若林は男子だし、べつにうまくやる必要はないと判断して、由里はこの塾に通い続けることにした。

しかし、元来お調子者の若林は、気軽に話しかけてくるうえに、冷たい態度を取ったところまでひるまない。

ウザいヤツといっしょになっちゃったなあ、と由里は正直うんざりしていた。

② だけど悪いことばかりでもなかった。

「若林くん。飴、食べる？」

「波多野さんって、学校でもこんななの？」

あるとき、由里が若林を冷たくあしらっているところに、彼女が話しかけてきたのだ。

「うーん。オレ以外には、優しいと思う。特に女子には優しいよな」

若林がそう答えるのを見て、由里は（ １ ） 言った。

「そう。特に女子にはね。うまくやるために、優しくするようにしてるの」

③ すると空美が、パツと顔を明るくして言った。

「わかるー。学校の友達とはうまくやらないといけないもんね。特に女子とはね」

そんな反応が返ってくるとは予想してなくて、由里は（ ２ ） 彼女を見つめた。

「私も話合わせるために、その俳優私も好きとか、けっこうウソ言っちゃうんだよね」

由里は驚きで声にならず、うなずくのが精いっぱいだった。

「でも、そういうの必要なウソだって思ってるから、まあいいかなあって。それがきっかけでいじめられたりするのバカバカしいし」

「だよね！」

由里は、彼女の言葉に大きくうなずいた。

そう、なんにもいつも本音じゃなくていいのだ。

うまくやるために《必要なウソ》もある。

使い分けていいのだ。

④ 由里はそんな彼女の言葉に、救われた気持ちだった。

すると、そんなふたりのやりとりを聞いていた若林が、顔をしかめた。

由里の隣で同じように予習をしていた佐竹空美が、若林に飴をさしだす。

「うん、食べる」

若林が嬉しそうにそれを受けとって、口に放りこんでいる。

佐竹空美。

中学が違う彼女とは、この塾で初めて出会った。

「由里も食べる？」

「味は？」

「ゆず」

「じゃあ、いいや」

これが学校の友達なら、どんな味だろうと「ありがとう」と飴をもらうのが由里のやりかただ。

相手の親切を断って、嫌われたら困るから。

だけど、ここではそういう気遣いはしないことにしていた。

この塾に入るときに、そう決めたからだ。

ここではウソはつかない。どんなときでも、素の自分である。

たかが、飴玉ひとつのことでも、ウソはイヤ。それで嫌われるなら、それでかまわない。

だけど、佐竹空美は、そんな由里に興味を持ってくれた。

しかもそのきっかけが、若林の存在だった。

「怖いねー、女子の本音だねー」

そう言って **A** をすくめて離れていく後ろ姿を見て、由里と空美は顔を見合わせて笑った。

その日から、由里にとって空美は大事な友達になった。

志望校も偶然いっしょで、高校でもこんな調子で過ごせたらと、期待に胸を膨らませている。

そうして、松葉高校の入試本番を数日後に迎えようとしている今、

由里はあらためて思うのだ。

⑤ この三年間、ずっと、受験のことばかり考えてきたのは、どうしてだろう、と。

どうして自分は、中学の入学式も迎えない前から、松葉高校合格を目標に塾に行きだすほど、高校受験のことばかりを考えて過ごしてきたのだろう、と。

あのころ……そう、たぶん六年生の後半くらいのことだ。

中学受験をしない子たちは、自分たちが行くことになる隣の中学のうわさ話ばかりしていた。

そして、その話は、暗いものばかりだった。

部活で先輩にしごかれるとか、不登校になる生徒が多いとか、いじめを苦に自殺しかけた子がいるとか……。

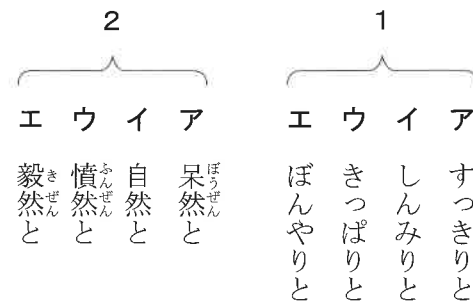
そんな話ばかり聞かされて、由里は心配になったり、怖くなったりで、これから迎える中学校生活に不安しか持てなかった。期待で胸を膨らますことが、まるでできなくなってしまった。

それで、目標を憧れの松葉高校合格と定めて、中学の三年間をその助走期間にしようと決めたのだ。

中学生生活を飛び越えたその先にある、高校生活に期待することにし

問一 (1) ・ (2) に当てはまる言葉として最も適

当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問三

——線部①「文句が言えなかった」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 事前に問い合わせた内容と話が違うということで塾長に文句を言いたいところだったが、その塾長は同じ中学に通う若林のおばさんに当たる人だということが後でわかったから。

イ 希望に反して塾には同じ中学に通う子がいたが、受験期の自分「小規模で丁寧に見てもらえそうだから」という塾選びの理由の方を優先しなくてはいけないと考えたから。

ウ 塾に同じ中学の子がいたことくらいで文句を言ったら、アンケートに書いた塾選びの理由は嘘(うそ)だったことがばれてしまい、若林に学校で何を言われるかわからないと思ったから。

エ 実際には同じ中学の子がいないということでこの塾を選んでしたが、「小規模で丁寧に見てもらえそうだから」という規模や指導を理由にこの塾を選んだと初日に答えてしまっていたから。

問二

——Aには体の一部を表す言葉が入ります。当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 頭 イ 肩かた ウ 足 エ 腕うで

問四

——線部②「だけど悪いことばかりでもなかった」とありますが、由里がそのように思ったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 塾で気軽に話しかけてくる若林を初めは面倒くさく感じていたが、しだいに若林が女子たちの本音を理解してくれる貴重な存在になっていったから。

イ 同じ塾に若林がいたことで、学校での友人関係に対する由里の考え方を空美が知ることとなり、そこに共感してくれた空美と本音で話し合える友達になれたから。

ウ 遠慮(えんりょ)のない若林の雰囲気(ふんいき)も手伝って、由里も塾で知り合った空美に対しては気を遣わず、何でも思ったことを言えるような関係を築くことができたから。

エ 塾では学校とは違った雰囲気(ふんいき)で過ごそうと考えていたことを若林にばらされて困惑(こんわく)したが、むしろ空美は由里のその考え方を素直に受け入れてくれたから。

問五

——線部③「すると空美が、パッと顔を明るくして言った」とありますが、このときの空美の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 由里も学校と塾とで友達との接し方を使い分けていることが嬉しく、これから二人で助け合っていきたいと思っている。

イ 男子には冷たく接する由里だが、女子には優しいところもあることを知って、これからは仲良くなれると期待している。

ウ 自分と同じように学校の女子の友達には気を遣って過ごしている由里の話聞き、その気持ちに共感して喜んでいる。

エ いじめられないように振る舞(ふるま)っているのは自分だけでないことを知り、初めて自分の理解者が現れた気がして驚いている。

問六

——線部④「由里はそんな彼女の言葉に、救われた気持ちだった」とありますが、このときの由里の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 必要なウソはついてもいいという空美の言葉を聞き、それまで凝り固まっていた自分の考え方から解放されて楽な気持ちになっっている。
- イ 学校での友人関係について悩んでいたところ、明るく話す空美と塾で出会い、彼女となら本当の友達になれるのではないかと期待を寄せている。
- ウ 友達とうまくやるためならウソも必要だという考えは自分だけの感覚だと思っていたが、空美もまるで同じ考えだったことがわかって驚いている。
- エ いじめられないように無理に友達と話を合わせている自分を情けなく思っていたが、空美も同じ気持ちであることを知って安心している。

問七

——線部⑤「この三年間、ずっと、受験のことばかり考えてきたのは、どうしてだろう」とありますが、由里は「この三年間」をどのような時間だと考えていましたか。そのことを比喩を用いて表現している言葉を文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

問八

——線部⑥「由里の中学生生活は、もう限界を迎えようとしていた」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 受験を乗り越えるため、これまでは友達を作らずに一人で勉強してきたが、今となつては本音で話せる仲間と一緒に勉強した方が効率がよかったかもしれないと思えてきたということ。
- イ 受験を乗り越えるため、自分を抑えてひっそりと生活してきたが、やはり中学時代には表舞台で華々しく活躍してみたかったという正直な気持ちを隠せなくなってきたということ。
- ウ 受験を乗り越えるため、孤独と戦いながら勉強を続けてきたが、このままでは中学生生活に何も楽しい思い出がないことに気がつき、悲しくなってきたということ。
- エ 受験を乗り越えるため、受験に関係のないことはできるだけ遠ざけて学校生活を送ってきたが、本音を話せる仲間を持たずに受験に向かうのは苦しくなってきたということ。

問九

——線部⑦「もう、未来に逃げない」とありますが、「未来に逃げ」とはどういうことですか。三十字以内で説明しなさい。

※¹『広辞苑』の定義によれば、技術は科学を実地に応用するものである。日本語で、科学技術、という言葉があるが、この場合に科学は技術を形容している。欧米語には、科学と技術と並列させても、この二つの語を連ねる表現はない。

自分の生活を豊かにしたり、外敵から身を守ったりするために技術を使い、その技術をより有効なものに磨き上げていく。という観点から、技術といえ、これはヒトが人になる前から、もともと広義にみれば、動物たちにも広範囲にみられるものである。そのような技術は、人の専有物ではない。

ヒトが火を使うようになったとき、火をつけたり消したり燃やし続けたたりする技術を獲得した。ヒトが石器をつくったとき、石を割って道具を作る技術を獲得した。ヒトが狩猟採集に赴くとき、狩りをし、採取する技術をもっていた。そのような技術は、初期のころはサルなどの動物がもっている技術と大差ないものだった。技術の源は、ヒトがまだサルとそれほど違わなかったころからの遺産である。サルに限らず生物たちは、個体の生涯の間に自身で学習して覚える技術をもっているし、社会生活を営んで、年長者から見習う学習によって習得する技術ももっている(この意味では、『広辞苑』の定義による技術は現代人の用いる技術に限定したものだといえる)。

一方、科学は、物事の本質、原理、成り立ちを知りたいという人の

考えてみると、ずいぶんと本末転倒の論理である。もちろん、自分た

ちの生活を豊かにする技術を発展させるために、自然界の原理原則を知る必要があつて、それが科学の始まりに結びついたということはある。技術開発の必要性に迫られて、科学の発達がうながされたことも多々ある。戦争のたびに科学の飛躍的な発展が見られた。それでも、時代を画す科学の大きな進歩は、技術のために役に立てようとしたものではなく、純粋に科学的な好奇心から推進された研究によるものであることが多い。自然界の原理原則を知りたいという知的好奇心と、それを解明し得たときの歓びへの期待から、科学上の困難な課題に取り組むのであつて、役に立つ範囲で研究していたのでは、科学に対する大きな貢献などできないだろう。(1)、科学が明らかにした原理原則に基づいて、すばらしい技術の開発があり得るのである。技術を開発する目的で解明される自然界の原理原則は、おおむね限定された課題に対する解析に留まるだろう。

思索の産物である科学と芸術は人の専有物である。科学という知的所産をもつようになつた人は、科学の原理を応用して技術を高度に発達させた。これが科学技術である。技術一般は生物に普遍的なものであるが、科学技術と呼ばれる高度に発達した技術は人だけが活用することのできるものである。そして今では、『広辞苑』の定義に見るように、それを技術と呼ぶこともある(その定義に従うと、科学技術という言葉は、科学に基づいたものである技術という語にもう一度科学という形容を重ねた表現ということになってしまふ)。

私たちは、日本ではとりわけ、科学は技術と同根のものだと思いがちである。しかし、実際は、純粋に知的な活動である科学と、役に立つことを一途に目指す技術とは、その成り立ちが少し違うのである。

A をばねとして、科学的方法によって新たな知の獲得を追究する行為である。これは、動物たちには見られない特殊な活動で、人を人たらしめている行為のひとつである。それは、芸術と同じく人に限られる知的活動である。

科学や芸術の始まりはどこにあるのだろうか。アルタミラ洞窟の壁画など、芸術については始まりの歴史は古い。科学については、たとえば自然史学はアリストテレスに始まるといわれるように、文字による記録などが始まってからは科学的思考の定着のあとを見ていくことはできるが、人の知的好奇心はもともと古い時代からあつたことだろう。それが科学としての体系をもち始めたのがアリストテレスの時代になつてからということだろうか。いずれにしても、科学の始まりは、ヒトが言語や文字をもつようになり、DNAで伝達する歴史的蓄積とともに、社会に蓄積される知的遺産を伝達し、その蓄積量をほかの生物とは比べものにならないくらい大量にできるようになってからのことである。文明がすでに霊長類ヒト科の動物であつたヒトを人という存在に高めてからの所産なのである。

知的行為としての科学研究を始めてから、人は自然界の事象についてさまざまな原理原則を解明してきた。その科学による知見は、人の技術を高度に発達させる大きな原動力となつた。技術を発達させるために、その基礎となる科学の振興を図ることにもなつたが、それは、

身近な石を削つて道具とした時代に比べて、人の技術は、できないということはないくらいにまで進歩した。そのような面から人の文明

と、それを育てる技術の今日と未来を見れば、賛美することこそあれ、厭世的になることは何もない。にもかかわらず、人と自然の調和ある共存を説くとき、私たちは技術が及ぼす反自然の行為に批判的になる。それは、しかし、技術そのものへの批判だとは思えない。技術をどのような目的でどのように使っているかに、考えてみるべき点が多々あるのである。技術性悪説とでもいえるような技術への批判があるが、いまの私たちは、技術による自然の改変なしには生きていけなくなっている歴史の重みを背負い、技術の根幹にはヒトが人になる前から使っていたものさえあるのだから、技術性悪説に立てば、自然界の存在として生まれてきたヒトそのものを悪と決めつけることになる。

ノーベルはダイナマイトを発明し、人の技術にまさしく爆発的な力をもたらした。彼は巨万の富を得て、自分の功績に満足しながら生涯の幕を閉じることができたはずだった。(2)、ダイナマイトは兵器として使われ、大量殺戮にめざましい力を発揮した。ノーベルは、自分の発明に充足を得ることができず、ノーベル賞が創設されることになった。このよく知られた事実は二〇世紀の科学と技術について、大変重要な示唆を与えてくれる。ノーベル賞は、二〇世紀の科学技術を推進するのに大きな役割を果たしてきたが、さまざまな「ダイナマイト」もまたその過程でつくられてきた。「ダイナマイト」はいつても平和のうちに使われてきただろうか。自然を圧迫し、人類の生存を危うくするかたちで使われてきた「ダイナマイト」はなかっただろうか。

科学はそのものの自体のために進歩するが、技術の進歩にはそのようなことはまずない。技術はそれを利用して何かをなそうという意図のもとに発展する。だから、戦争を機として飛躍的に技術が進歩することがあるのである。戦争のとき、人々は生存をかけて敵に対する勝ち抜くためには、金に糸目をつけず、莫大な労力も投入される。技術がそのような状況下で飛躍的に進歩することは象徴的なことである。この事実は、技術が誤って使われる例のあることと関係する。毒ガスや地雷のような大量、無差別の殺戮兵器がどうして生まれたのか。

しかし、そういった特異なものを別とすれば、技術の進歩そのものの歴史をみて、技術それ自体が咎められるようなことは必ずしも多くはない。ダイナマイトのように、きっかけとしては人々の福利のために創り出されたものが、それに反する使い方をされるようになってしまった場合が少なからずあるということなのである。技術の進歩に関連して、このことは意識しておいてしすぎることはないかもしれない。

（岩槻邦男『生命系』岩波書店より）

* 本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

100

95

- ※1 広辞苑……………岩波書店が発行している国語辞典。
- ※2 ヒトが人になる前……「ヒト」は原始的、動物的な存在としての人間のことを表し、「人」は文化的、文明的な存在としての人間のことを表している。
- ※3 アルタミラ洞窟……………旧石器時代の壁画があることで有名な、スペイン北部にある洞窟。
- ※4 アリストテレス……………古代ギリシアの哲学者。
- ※5 普遍的……………すべてのものに共通しているさま。
- ※6 厭世的……………世の中を悲観的にとらえる傾向。
- ※7 技術性悪説……………技術は本来的に悪いものであるとする考え方。
- ※8 示唆……………それとなく教えること。

問一 (1) ・ (2) に当てはまる言葉として最も適当

なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア または イ そして
- ウ しかし エ なぜなら

問二 ——線部①「そのような技術は、人の専有物ではない」とあ

りますが、この「技術」はどのような目的で用いられてきた技術ですか。文中の言葉を用いて三十五字以内で答えなさい。

問三

A

に当てはまる言葉を文中から五字でぬき出して答

えなさい。

問四

——線部②「それは、考えてみると、ずいぶんと本末転倒の論理である」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 本来は科学が解明した原理原則によって新たな技術が開発されるはずだが、実際には技術を発達させることを目的に科学の発展が図られてしまっているということ。

イ 科学は物事の成り立ちを知りたいとする人間の自然な欲求から生じるはずだが、実際には科学を発展させるために無理やり新たな課題を設定してしまっているということ。

ウ 科学は本来、純粹な研究を大切にしてきたはずだったが、いつの間にか技術開発の名のもとに戦争にまで利用されてしまっているということ。

エ 科学はその振興よりも技術の発展を手助けすることを優先してきたはずだったが、実際には科学が技術を発展させることはできなかったということ。

問五 ――線部③「純粹に知的な活動である科学」とはどういうものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自然界の事象のあらゆる疑問を解明していききたいとする人間の欲求と、社会からの要請^{ようせい}によって作られるもの。
- イ 自然界の事象について、さまざまな法則を解明していくことで得られる人類の知見から作られるもの。
- ウ 自然界の原理原則を解明したいという気持ちと、それが解明されたときの喜びへの期待から作られるもの。
- エ 自然界の原理原則を解明することで人間の技術をさらに発展させ、その優れた技術によって作られるもの。

問六 ――線部④「さまざまな『ダイナマイト』もまたその過程でつくられてきた」とありますが、「さまざまな『ダイナマイト』」とはどのようなものの比喩ですか。文中の言葉を用いて四十五字以内で答えなさい。

問七 本文の内容として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 戦争に勝つための技術開発に金も労力も惜^おしみなく投入されることで技術は進歩し、そうして創り出された技術によって人類は大きな繁栄^{はんえい}を遂^とげてきた。
- イ 人類の技術の歴史と現在の状況とを考えてみたとき、技術そのもののへの安易な批判よりも、技術をどのような目的でどのように使っているかを考えることの方が重要だ。
- ウ 科学が産み出されたのは、言語や文字によって知的遺産が伝達されることでその蓄積量がほかの生物とは比べものにならないくらい大量になってからのことである。
- エ 知の獲得を求めて科学的方法で自然界の原理原則を知ろうとするのに比べて、技術を開発する目的で自然界の原理原則を知ろうとする場合は、知ることができる範囲は限定される。

問八 人々の幸せのために作られたものが、結果的に悪いことにつながっているものの例を一つ挙げ、それがどういうねらいで作られ、どういう悪い結果をおよぼしているかを説明しなさい。ただし、本文に挙げられている例以外で答えること。

(問題は以上です。)

令和2年度 佼成学園中学校 入学試験問題

国語 解答用紙

[一]

①	濃霧
---	----

②	潔白
---	----

③	度胸
---	----

④	誇らしい
---	------

⑤	蒸らす
---	-----

⑥	サイシン
---	------

⑦	チョスイチ
---	-------

⑧	キヨウ
---	-----

⑨	ツトめる
---	------

⑩	イソガしい
---	-------

[二]

問一	1
----	---

2

問二	1
----	---

2

3

問三	1
----	---

↓

2

↓

3

[三]

問一	1
----	---

2

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

[四]

問一	1
----	---

2

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

例

合計

受験番号
